

政経 記述模試 講評

詳しい解説は、配布される「学習の手引き」に記載されるので省くが、大問5問のうち、1・2は政治分野、3・4は経済分野、5は現代社会の課題からの出題。政治分野の1・2はNO. 7まで配布済みの「政治分野プリント」に基づいて、政治分野の自学自習をやっていた者とやっていない者、しっかりやっている者といない者との間で得点が大きく差がついたのではないだろうか。授業でも繰り返し言っている通り、政経の入試は、歴史や地理の基礎知識も必要。1の間4や問5は高校入試レベルの歴史の基礎知識である。「政治分野プリント」をきちんとやっていた者は、大問1・2では7～8割得点したいところ。2の間2、正解の「ポピュリズム」は近年非常に良く使用される語句だが、この問題文で「ポピュリズム」は少々難がある。「大衆迎合主義」の意味合いで使用されることが多いことを把握しておこう。3の前半は授業で既習の箇所。中盤はコロナによる休校がなければ全てのクラスで既習しているべき箇所だが、一部のクラスでは模試後になり、差がついて申し訳ない。後半は全員未習なので「フリードマン」や問4、問6は出来なくても仕方がない。問3の「需要曲線と供給曲線」のグラフからの出題、必ずやっておこうと言いました。しっかりやっていた人はできたはず。ようやく配布できた問題集「ベストセレクション」に過去問たくさんあるので、必ず時間をとってやっておこう。4はお手上げで仕方がないです。「企業（特に株式会社）」を詳しく学ぶのはまだまだ先ですし、「金融」に至っては11月ごろ。4で得点できなくても、まったく気にしないで良い。5の間1, 2, 3, 4, 6は中学や高1「現代社会」で学んだことが知識として定着していれば得点できる。よって、これも差が開く大問ではないだろうか。

最初の授業でプリントも配布して伝えましたが、先輩たちも言っている通り、この時期は政経（現代社会もそう）は得点や偏差値は全く気にしなくてよい。ただ、やるべきこと（週に1hで良いから政治分野の学習をする。授業に集中する）をきちんとやっていけば、大丈夫。この2点を怠った者と集中力を持ってやり続けた者では年末年始の頃に大きな差がつく。私の言うことや先輩たちの言うことを信じてやり進めて下さい。

全国レベルの模試を展開している大手予備校は、模試の問題作成と解説＝学習の手引きの作成に力を注いでいる。この「学習の手引き」で大いに学べる。これを参考に、既習の分野も未習の分野もしっかりやり直しをしておくことが得点力大幅アップのポイント。これをやらずして“積読”状態では、高い模試受験料をどぶに捨てるようなもの。きっちりやり直し（出来れば複数回）すれば、受験料も高くはない。